

令和7年度の取り組み

- 1 よりよくなるための種と芽に気づき考え挑戦する
1学期 成長している葉と花に気づき考え挑戦する
2学期 自分達が実らせた実とつなぐ方法に気づき考え挑戦する3学期
- 2 主体的に考え自発的な対話をうむ「学びづくり」
- 3 思いやり環境と危機管理の日常化で関わりをうむ「仲間づくり」

令和7年度の児童の実態

- 1 自己肯定感の向上
「挑戦の木」や「ボイスシャワー」などによる「お互いの良さを認める」実践の成果である。
- 2 思いやり環境を意識できるようになってきた
「なぜ思いやり環境が必要なのか、どうしたらよいか」について、児童会を中心に自分たちのこととして考えた成果である。
- 3 対話を大切に授業
小笠北小学校が大切にしてきた授業の「めもま（めあて、もんだい、まとめ）」による分かる授業の継続に加え、「学びのつくえ」「ミルキ名人」による聴く姿勢・反応のレベルアップなどの成果である。一方で、授業に主体的に取り組む力を向上させる必要がある。
- 4 地域などとのかかわりを大切にする意識を高めた。

岳洋学舎教育目標（令和2年度～）
自信をもち 自分の力を発揮する子

重点目標 「気づき 考え 挑戦する子」

児童の具体的な行動

北小ナンバーワンあいさつ(自分が目指すあいさつ)ができる。
大きな声で、校歌を歌うことができる。
落ちていた物を見つけたら、自分から拾うことができる。
時間を意識し、進んでチャイム着席を呼びかけることができる。
活発に対話したり、前に出て説明したりする。
授業の振り返りで、「分からないこと」と「学んだこと」を書く。
校内外のボランティア活動へ積極的に参加する。
地域・学校・学級のために「〇〇しよう」と提案する。
正しくない行動を指摘し、困っている仲間にやさしい声かけをする。
相手の名前を大切にし、さらにそれを啓発する。

めざす子供の姿を実現するための学校の姿

- (1) 共に自己肯定感を高める学校
成果指標「みんなで何かをするのは楽しい」と肯定的評価をする児童 95%以上
- (2) 児童が主体的に学ぶ学校
成果指標「授業に主体的に取り組んでいる」と肯定的に評価する児童 90%以上
- (3) 地域とともにある学校
成果指標「地域や学校をよくするために何をすべきかを考えることがある」と肯定的評価をする児童 80%以上

「気づき 考え 挑戦する」PDCA サイクル

「北小ナンバーワンあいさつ」と「対話」で元気いっぱい1学期
「積極的な行動」と「問い」で、関わりいっぱい2学期
「自慢の校歌」と「思いやり行動」で、伝統をつなぐ3学期

生徒指導 2本柱「思いやり環境」「自己肯定感向上」

「挑戦の木」とボイスシャワーで「自己肯定感の向上」をめざす。
「思いやり環境」と「危機管理の日常化」で安心・安全で楽しい学校を実現する。

学力向上

- ア 「授業のめ・も・ま」ので分かりやすい授業をめざす。
- イ 「学びのつくえ」で、学ぶ姿勢の基礎をつくる。
- ウ 「きく・が・わ授業」で対話力を育成する。
身体を向けて聴く、たくさん書く、大きな声で話す。
- エ 「わからなかったこと」と「学んだこと」
問いを生む振り返りをする。
- オ 関わりから学ぶ「総合的な学習の時間」と「読書」の推進

主体的な児童会活動

- ア 何を、なぜ、どうすればよいか
児童が考え挑戦する。
- イ 自分たちで呼びかけあって行動する集団をめざす。
- ウ 感謝と積極的な関わりで主体性を育成する。
- エ 学校が楽しいと感じる機会を計画的に設定する。
- オ ゆとりある安定した学校
分かりやすい日課と見通しのある計画をする。